

# 岡山県感染症週報 2014 年 第 8 週 (2 月 17 日～2 月 23 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ◆2014 年 第 8 週 (2/17～2/23) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第 6 週 2 類感染症 結核 1 名 (幼児 女)  
 第 7 週 2 類感染症 結核 2 名 (30 代 女 1 名、70 代 男 1 名)  
 第 8 週 2 類感染症 結核 2 名 (30 代 女 1 名、80 代 男 1 名)

### ■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 1821 名 (定点あたり 21.53 → 21.94 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。  
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 387 名 (定点あたり 6.62 → 7.30 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。  
 ○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 86 名 (定点あたり 0.81 → 1.62 人) の報告があり、大きく増加しました。

### 【第 9 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 66 施設でありました。(2 月 24 日～26 日)  
 ○倉敷市の幼稚園 1 園で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。(2 月 27 日)

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で 1821 名 (定点あたり 21.53 → 21.94 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。第 5 週をピークとして、第 6 週に報告数が減少した後、横ばいで推移しています。ピーク時に比べると報告数は減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。地域別では、岡山市 (28.36 人)、倉敷市 (27.81 人)、備中地域 (22.25 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。倉敷市、備前地域、備中地域及び真庭地域では再び報告数が増加しました。インフルエンザによる入院患者は 2 名の報告がありました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 70 施設であり、第 9 週も臨時休業施設が多発しています。県内の発生状況など詳しくは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。全国の第 7 週の発生状況を見ると、定点あたり 28.18 人であり、第 5 週をピークとして 2 週連続で減少しました。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 387 名 (定点あたり 6.62 → 7.30 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは [「感染性胃腸炎情報」](#) をご覧ください。
3. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 86 名 (定点あたり 0.81 → 1.62 人) の報告があり、大きく増加しました。詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。

3 月 1 日 (土) ～7 日 (金) は「子ども予防接種週間」です。

4 月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませましょう。

我が国では保護者を始めとした地域住民の予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を図るため、毎年 3 月 1 日～7 日を「子ども予防接種週間」とし、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県でも、この期間内に、趣旨に賛同した医療機関では、ワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、医療機関によっては土曜日、日曜日等、通常の診療時間外の接種も行っています。

- ・ [【平成 25 年度子ども予防接種週間】](#) (岡山県 健康推進課ホームページ)

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病			伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少    : 1.1~2 倍未満の減少    : 1.1 未満の増減

: 1.1~2 倍未満の増加    : 2 倍以上の増加  
発生状況: 空白: 発生なし    ★: 僅か    ★★: 少し    ★★★: やや多い    ★★★★: 多い    ★★★★★: 非常に多い  
今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

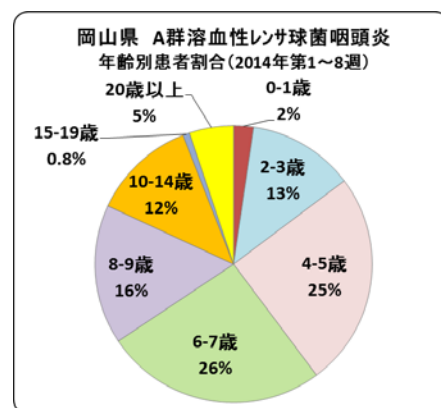
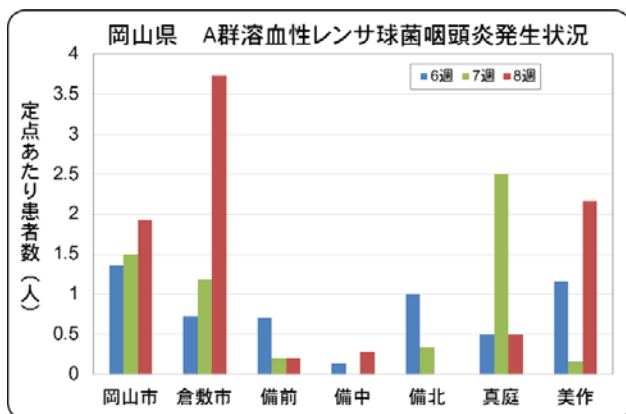
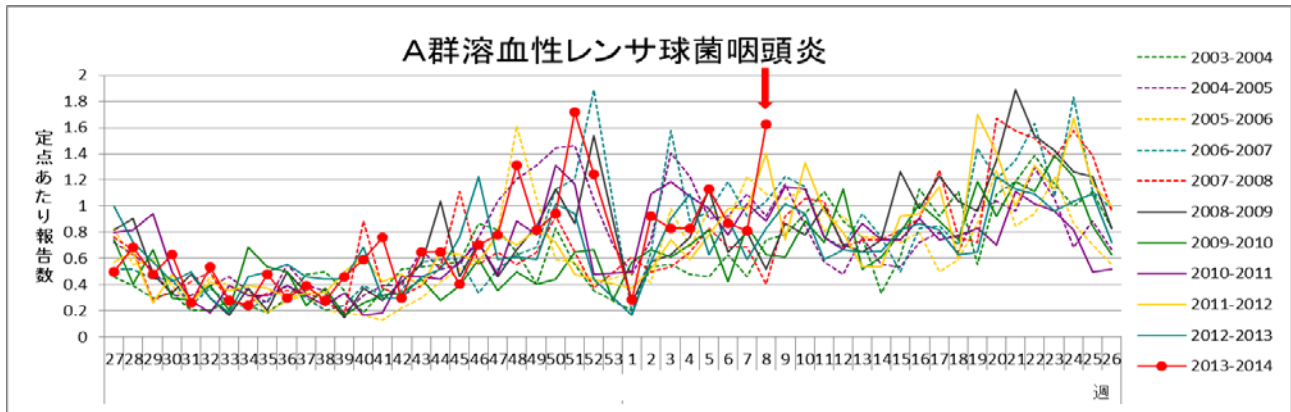
# 今週の注目感染症

## 1. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、感染症発生動向調査において、5 類の定点把握感染症であり、定点医療機関において、医師は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者を診断したときには、翌週の月曜日に最寄りの保健所に届出ることになっています。

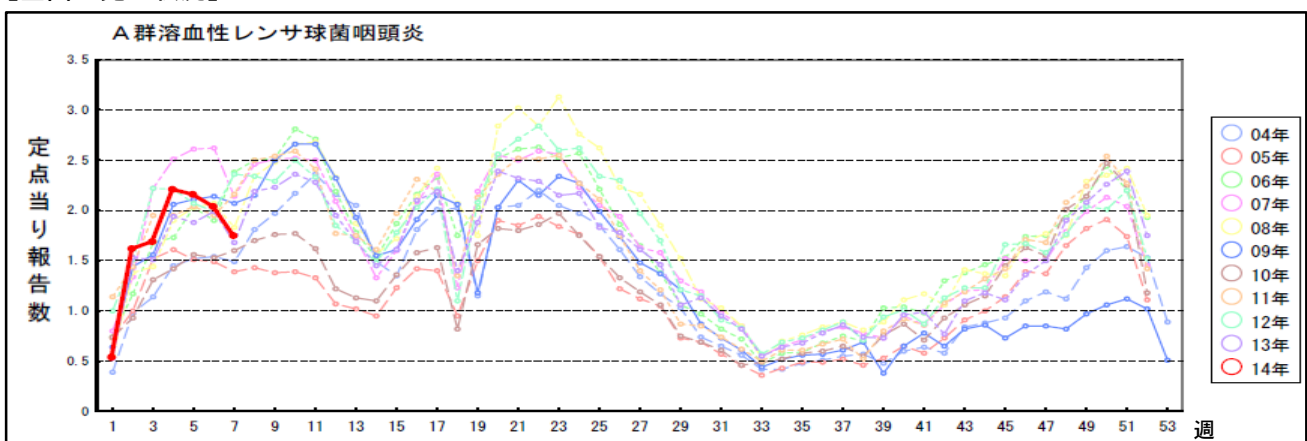
[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは \(国立感染症研究所 感染症の話\)](#)

### 【岡山県の発生状況】



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、第 8 週には県全体で 86 名（定点あたり 0.81 → 1.62 人）の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、倉敷市 (3.73 人)、美作地域 (2.17 人)、岡山市 (1.93 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、倉敷市 (1.18 → 3.73 人) 及び美作地域 (0.17 → 2.17 人) では、前週より大きく増加しました。2014 年第 1 週からの年齢別累計では、6-7 歳 26%、4-5 歳 25%、8-9 歳 16% の順で多く報告されています。

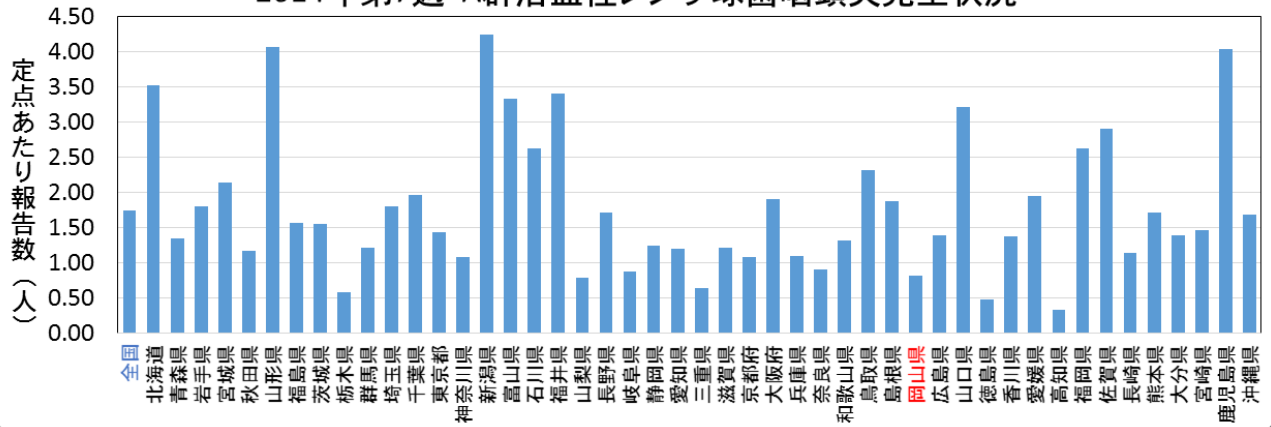
### 【全国の発生状況】



全国の第 7 週までの発生状況を見ると、1 月は過去の同時期に比べてやや高い水準で推移していましたが、第 5 週からは連続で減少しています。過去 10 年の発生動向グラフでは、9~11 週前後（3 月初旬頃）に報告数の増加が見られますので、今後の発生状況に注意してください。

[\(国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2014 年第 7 週\)](#)

2014年第7週 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



都道府県別の発生状況を見ると、新潟県（4.25人）、山形県（4.07人）、鹿児島県（4.04人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県より多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行う、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

**【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】**

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や学校、保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて2つの報告数のピークが確認され、患者の年齢は学童期の小児が最も多く報告されています。

**【症状】**

潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。通常発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後良好な疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。

**【治療・予防】**

治療には、抗菌薬の投与が行われます。アレルギーの有無などにより、投与される抗菌薬の種類は変わりますが、いずれの薬剤も少なくとも10日間は確実に投与する必要があります。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい・手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[\(国立感染症研究所 IDWR 2012年第20週 <注目すべき感染症> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎\)](#)

## インフルエンザ情報 2014 年 第 8 週 (2 月 17 日 ~ 2 月 23 日)

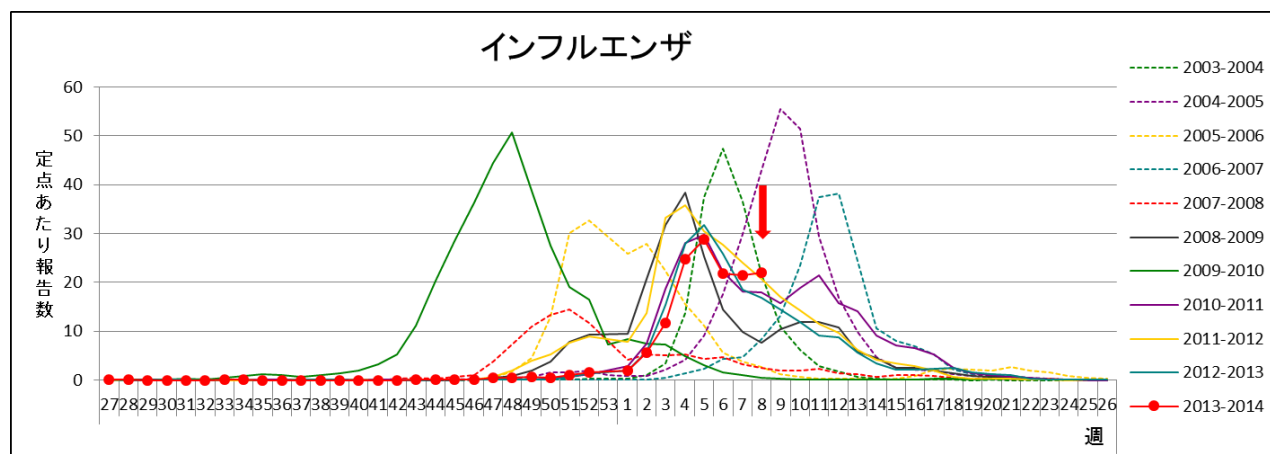
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1821 名 (定点あたり 21.53 → 21.94 人) の発生があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザによる入院患者 2 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 70 施設でありました。

## 【第 9 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 66 施設でありました (2 月 24 日~26 日)。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1821 名 (定点あたり 21.53 → 21.94 人) の発生があり、前週とほぼ同数でした (83 定点医療機関報告)。第 5 週をピークとして、第 6 週に報告数が減少した後、横ばいで推移しています。ピーク時に比べると報告数が減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。

地域別では、岡山市 (28.36 人)、倉敷市 (27.81 人)、備中地域 (22.25 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。倉敷市、備前地域、備中地域及び真庭地域では再び報告数が増加しました。

第 8 週の学校等の臨時休業は 70 施設から報告がありました。第 9 週も臨時休業施設が多発していることから、今後も幼稚園児、小学生、中学生を中心に患者の発生が懸念されます。『外出後や食事の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠をとる。』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

## ◆インフルエンザが流行しています。感染予防と拡大防止に努めて下さい。

◎外から帰ったときや、食事前には手洗い・うがいを心がけましょう。

アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

◎インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。

周囲の方々のためにも普段から「咳エチケット」を心がけましょう。

◎可能な限り人混みを避け、マスクを着用しましょう。体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

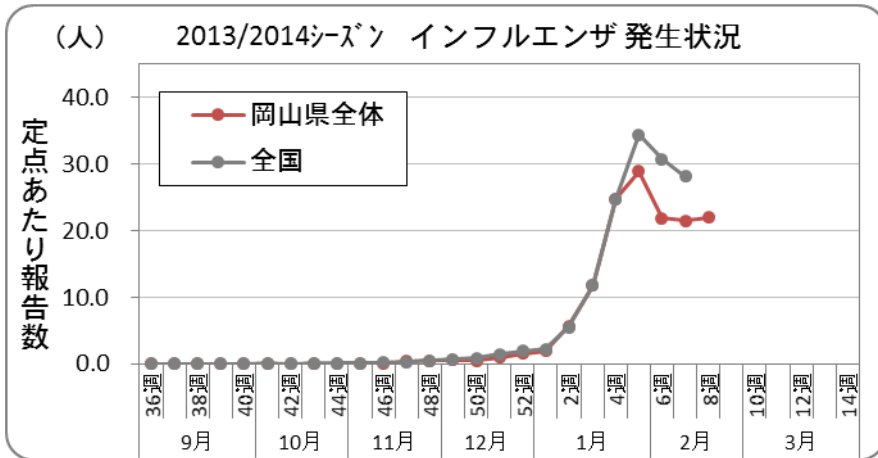
ワクチンは、感染を完全に防ぐことはできませんが、発熱期間の短縮や、重症化を防ぐことには効果があるとされています。

# 1. 地域別発生状況

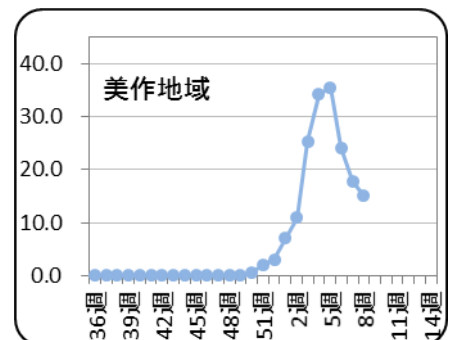
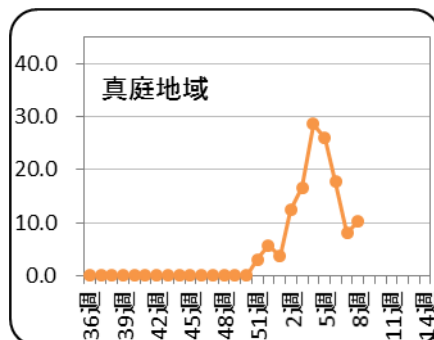
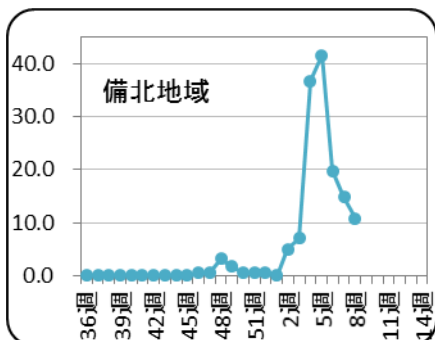
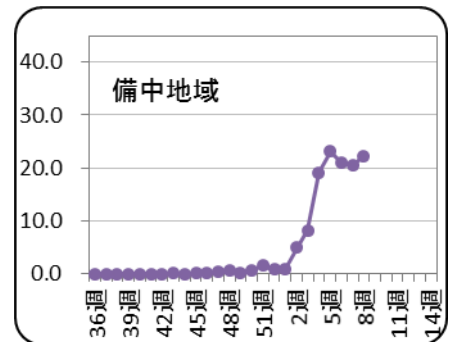
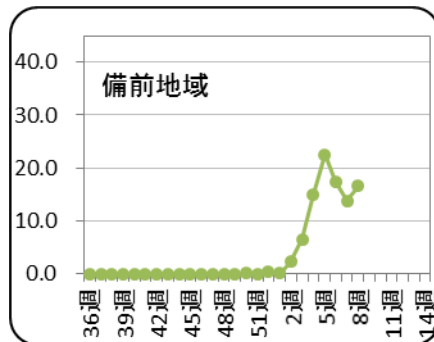
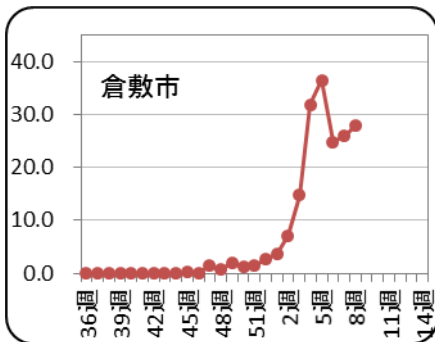
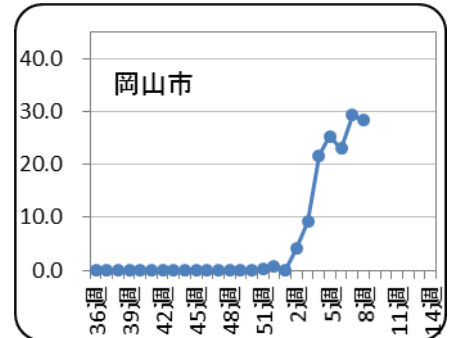
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1821	➡	備 中	患者数	267	➡
	定点あたり	21.94			定点あたり	22.25	
岡山市	患者数	624	➡	備 北	患者数	54	➡
	定点あたり	28.36			定点あたり	10.80	
倉敷市	患者数	445	➡	真 庭	患者数	31	➡
	定点あたり	27.81			定点あたり	10.33	
備 前	患者数	249	➡	美 作	患者数	151	➡
	定点あたり	16.60			定点あたり	15.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡  
 1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

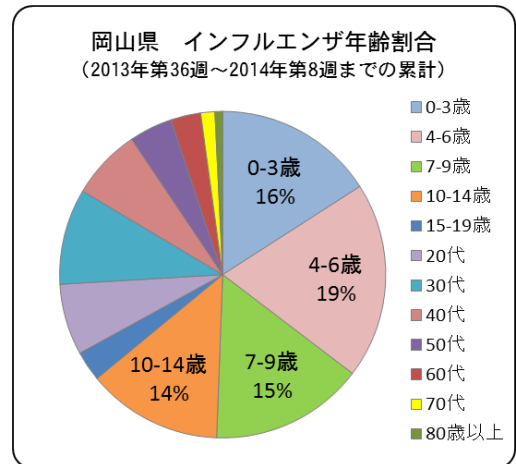
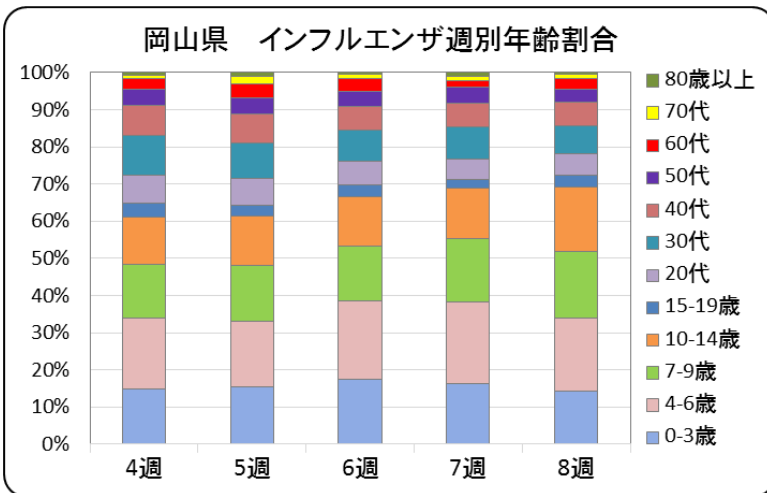


全国集計第7週(2/10～2/16)速報値によると、全国では定点あたり28.18人であり、第5週をピークとして2週連続で減少しました。地域別では、大分県(50.21人)、北海道(42.60人)、福岡県(40.30人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、29都府県で前週より減少しました。



## 2. 年齢別発生状況

週別の年齢割合を見ると、第8週は10-14歳の年齢層の割合が特に増加しました。第6週以降、14歳以下の年齢層の割合に増加傾向が見られています。今シーズン(2013年9月2日～)の年齢別累計割合は、4-6歳 19%、0-3歳 16%、7-9歳 15%の順で多くなっています。



## 3. インフルエンザウイルス検出状況

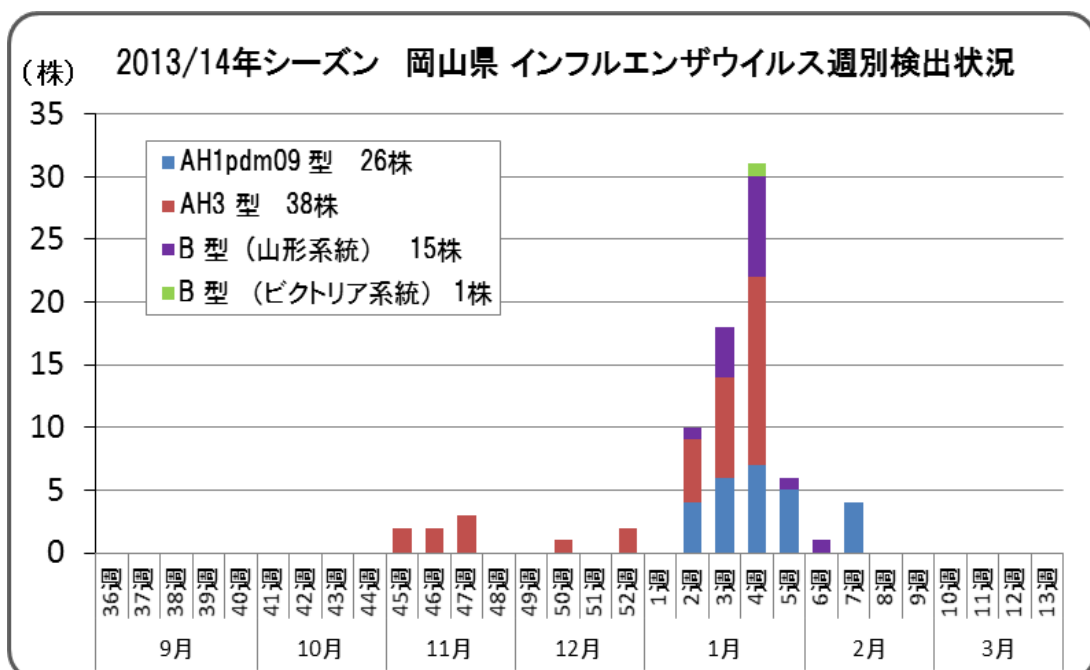
第8週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはAH3型が7株、AH1pdm09型が8株、B型(山形系統)が6株、B型(ビクトリア系統)が1株でした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が38株(48%)、AH1pdm09型が26株(32%)、B型が16株(20%)となっています。

### ・(岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 46%、AH3型 28%、B型 25%の順に多く検出されています。1月以降はAH1pdm09型の検出割合が増加しています。

AH1pdm09型のインフルエンザウイルスは、4年前の2009/2010年シーズンに新型インフルエンザとして大流行(検出割合 98%)しましたが、2011年4月以降は、通常の季節性インフルエンザの扱いとなったウイルスです。その後の2シーズンは低い検出率(0.2~2.4%)でしたが、今シーズンは3年ぶりに検出率が高くなっています。(平成26年2月27日現在)

### ・(インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所))



## 【第8週判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス B型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/22	備中	小学生	女	(山形系統)
インフルエンザウイルス B型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/22	備中	小学生	女	(山形系統)
インフルエンザウイルス B型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/23	備中	小学生	男	(山形系統)
インフルエンザウイルス B型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/23	備中	小学生	男	(ビクトリア系統)
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/23	備中	小学生	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/23	備中	小学生	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/23	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/24	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/24	備中	中学生	男	
インフルエンザウイルス B型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/24	備中	小学生	男	(山形系統)
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/25	備中	幼児	女	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/25	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/25	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/25	備中	中学生	女	
インフルエンザウイルス B型	2014年第 4週( 1/20～ 1/26)	2014/1/25	備中	小学生	女	(山形系統)
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 5週( 1/27～ 2/2)	2014/1/28	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 5週( 1/27～ 2/2)	2014/1/30	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルス B型	2014年第 6週( 2/3～ 2/9)	2014/2/3	岡山市	50代	女	(山形系統)
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 7週( 2/10～ 2/16)	2014/2/12	岡山市	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 7週( 2/10～ 2/16)	2014/2/14	岡山市	50代	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 7週( 2/10～ 2/16)	2014/2/14	真庭	小学生	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 7週( 2/10～ 2/16)	2014/2/14	真庭	小学生	男	

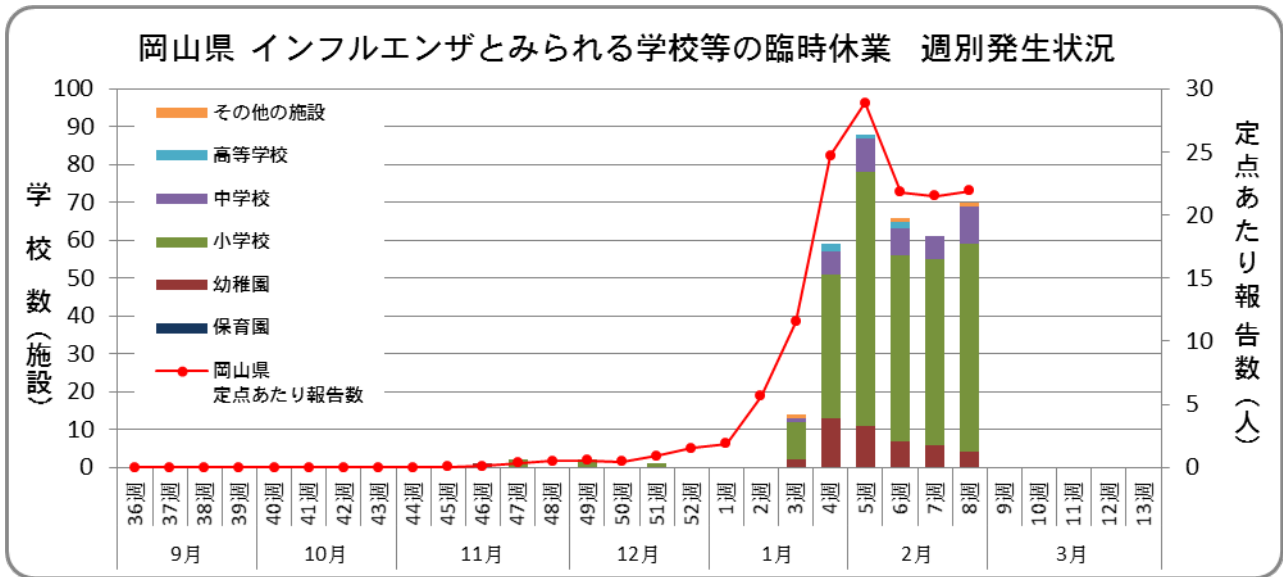


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 70 施設でありました。

##### 【第 8 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 28   ▽倉敷市 8   ▽備前市 3   ▽赤磐市 3   ▽玉野市 2   ▽瀬戸内市 1   ▽総社市 10  
▽浅口市 2   ▽新見市 2   ▽真庭市 1   ▽津山市 6   ▽美作市 3   ▽美咲町 1



#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>1052</b>	<b>5604</b>	<b>782</b>	<b>4171</b>	<b>70</b>	<b>364</b>	<b>0</b>	<b>11</b>	<b>20</b>	<b>101</b>	<b>50</b>	<b>252</b>	<b>H25. 11. 13</b>
岡山市	471	2413	347	1700	28	136	0	1	5	24	23	111	H26. 1. 14
倉敷市	118	811	97	644	8	60	0	1	1	12	7	47	H25. 11. 18
備前地域	90	428	80	343	9	34	0	0	6	17	3	17	H26. 1. 16
備中地域	236	638	148	465	12	40	0	0	1	11	11	29	H25. 11. 13
備北地域	22	86	22	69	2	10	0	2	1	3	1	5	H26. 1. 23
真庭地域	6	68	6	55	1	8	0	0	1	7	0	1	H26. 1. 27
美作地域	109	1160	82	895	10	76	0	7	5	27	5	42	H25. 12. 20

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第 8 週 : 70 施設

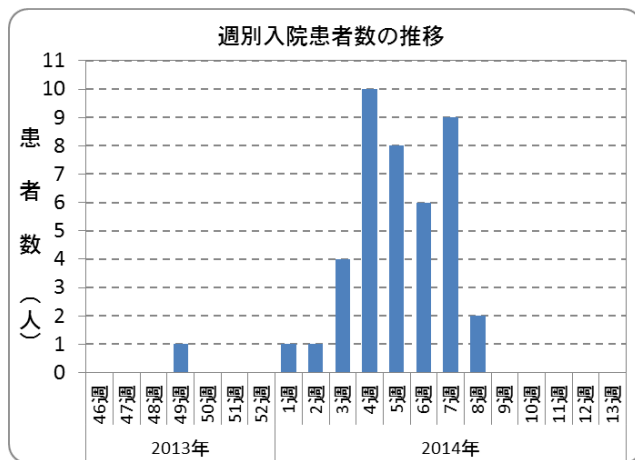
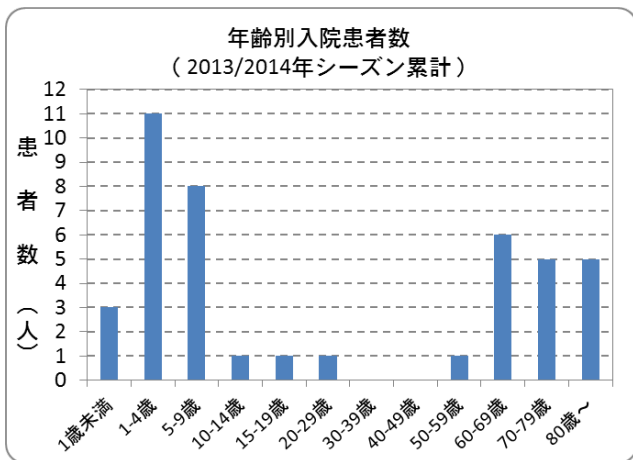
累計 : 364 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	4	44	55	273	10	39	0	5	1	3

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2名（5-9歳 1名、20代 1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 8 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1			1							2
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)			1										1
脳波検査(予定含)			1										1
いずれにも該当せず						1							1

\* 重複あり

【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	11	8	1	1	1			1	6	5	5	42
ICU入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1											1
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1		7
脳波検査(予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	7	5	1	1	1				6	4	5	32

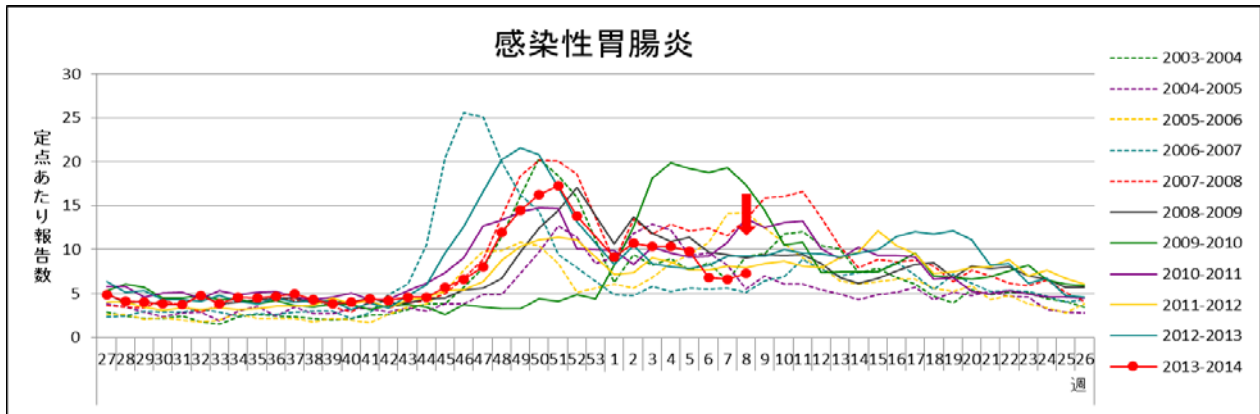
\* 重複あり

## 感染性胃腸炎情報 2014 年 第 8 週 (2 月 17 日 ~ 2 月 23 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 387 名（定点あたり 6.62 → 7.30 人）の発生がありました（53 定点医療機関報告）。

### 【第 9 週 速報】

○倉敷市の幼稚園 1 園で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。（2 月 27 日）



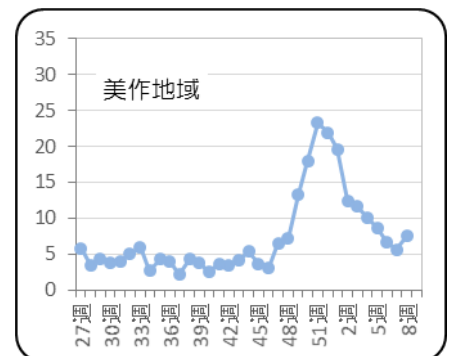
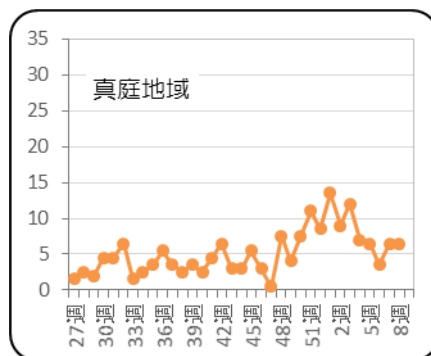
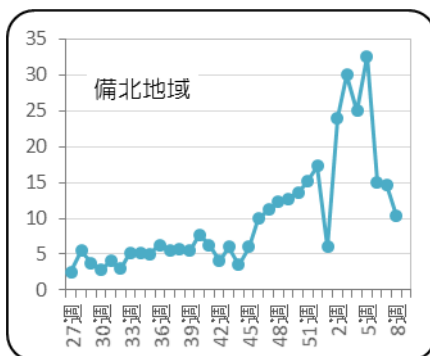
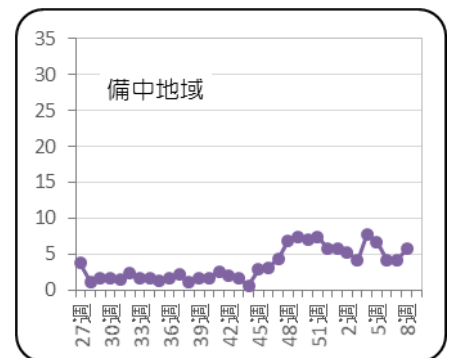
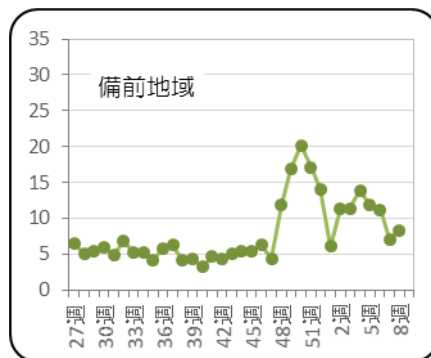
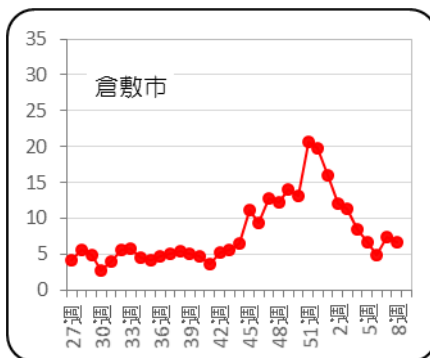
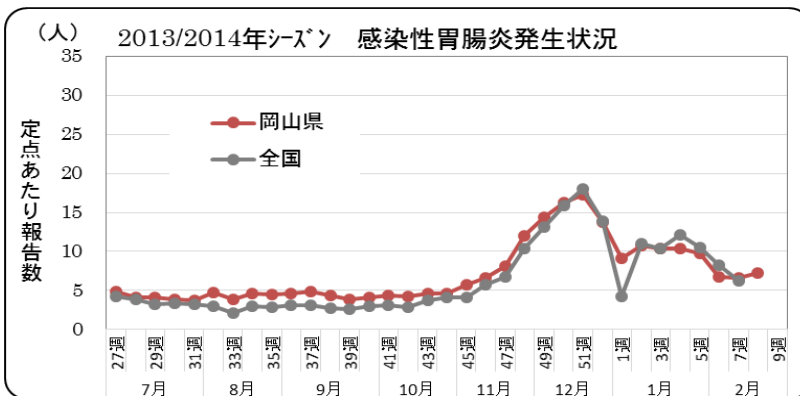
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

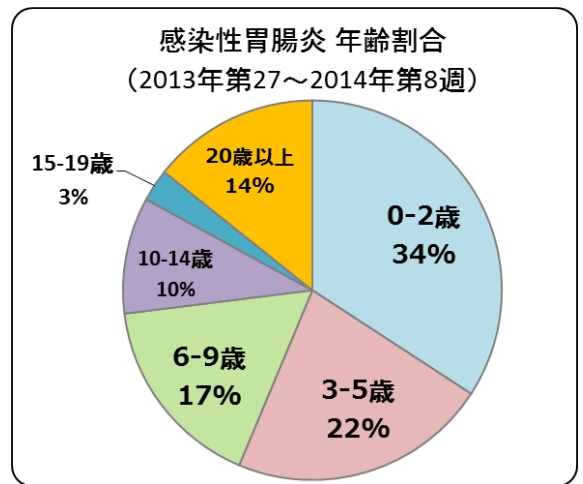
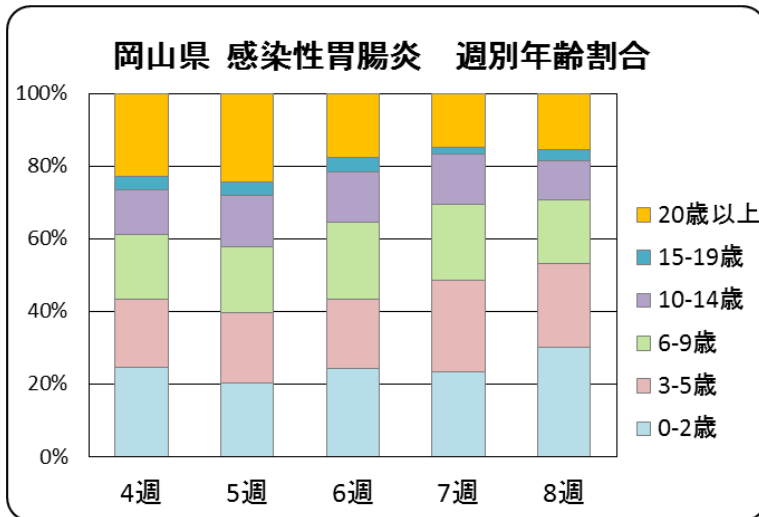
**感染性胃腸炎**は、県全体で 387 名（定点あたり 6.62 → 7.30 人）の発生があり、前週よりわずかに増加しました。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A について \(厚生労働省\)](#)

[○感染性胃腸炎 \(特にロタウイルス\) について \(厚生労働省\)](#)

### ◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、備北地域（10.33人）、備前地域（8.30人）、美作地域（7.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。週別年齢割合を見ると、第6週以降、乳幼児の年齢層の割合が徐々に増加しており、年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の56%を占めています。

また、例年3～5月に、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

## ◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2014年 8週 (2014/02/17~2014/02/23)

2014年2月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1821	21.94	624	28.36	445	27.81	249	16.60	267	22.25	54	10.80	31	10.33	151	15.10
RSウイルス感染症	11	0.21	4	0.29	3	0.27	1	0.10	1	0.14	1	0.33	1	0.50	-	-
咽頭結膜熱	29	0.55	16	1.14	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	5	2.50	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	1.62	27	1.93	41	3.73	2	0.20	2	0.29	-	-	1	0.50	13	2.17
感染性胃腸炎	387	7.30	101	7.21	74	6.73	83	8.30	40	5.71	31	10.33	13	6.50	45	7.50
水痘	51	0.96	10	0.71	14	1.27	4	0.40	14	2.00	-	-	6	3.00	3	0.50
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.32	8	0.57	4	0.36	1	0.10	2	0.29	1	0.33	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	2	0.40	2	0.50	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 8週 (2014/02/17~2014/02/23)

2014年2月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1821	21.94	624	28.36	445	27.81	249	16.60	267	22.25	54	10.80	31	10.33	151	15.10
咽頭結膜熱	29	0.55	16	1.14	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	5	2.50	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	1.62	27	1.93	41	3.73	2	0.20	2	0.29	-	-	1	0.50	13	2.17
感染性胃腸炎	387	7.30	101	7.21	74	6.73	83	8.30	40	5.71	31	10.33	13	6.50	45	7.50
水痘	51	0.96	10	0.71	14	1.27	4	0.40	14	2.00	-	-	6	3.00	3	0.50
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	2	0.40	2	0.50	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2014年 第8週 2014/02/17～2014/02/23 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1821	6	29	63	78	86	111	120	127	131	104	89	317	55	107	139	115	63	52	21	8

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	11	3	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	29	-	1	7	2	3	3	5	3	3	1	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	-	1	-	3	7	10	12	9	7	10	5	18	1	3
感染性胃腸炎	387	2	23	46	46	30	28	31	19	19	15	14	42	12	60
水痘	51	2	3	6	5	10	11	4	6	-	1	-	3	-	-
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	-	6	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-

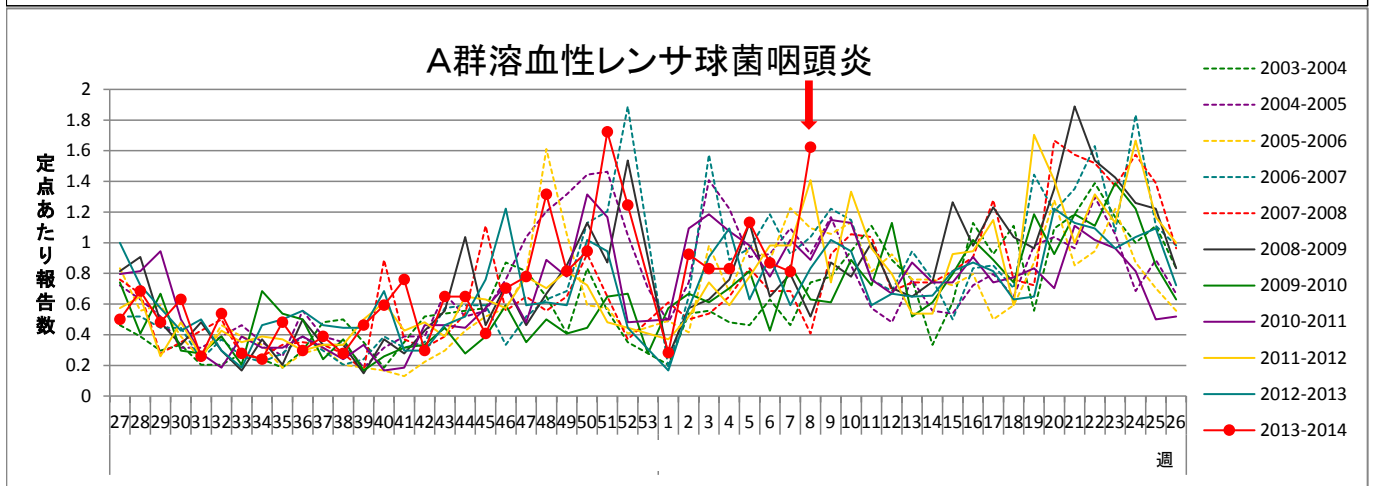
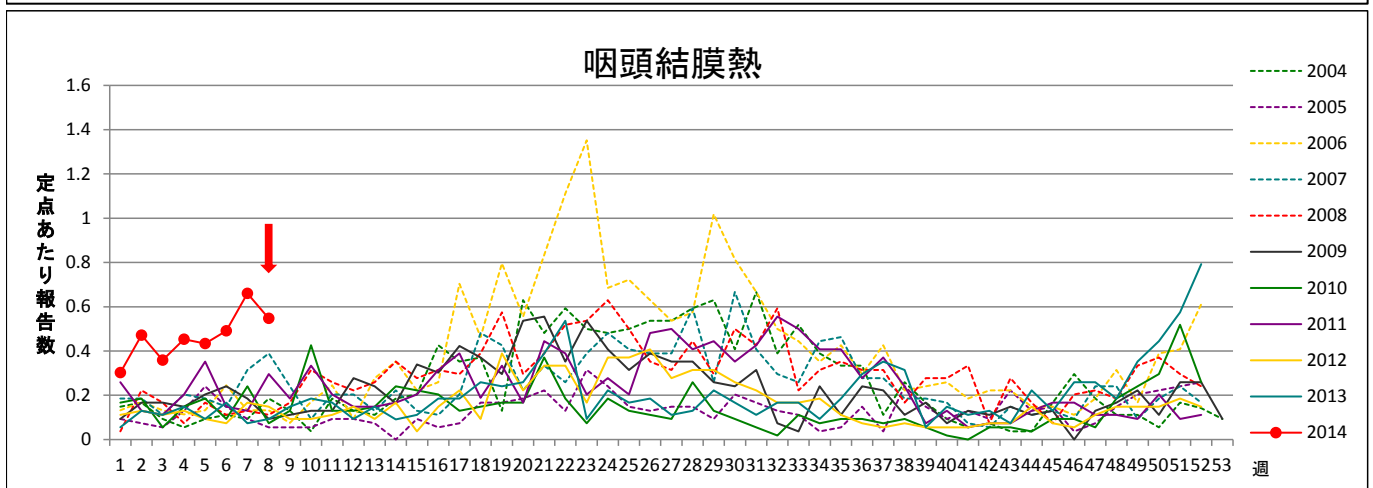
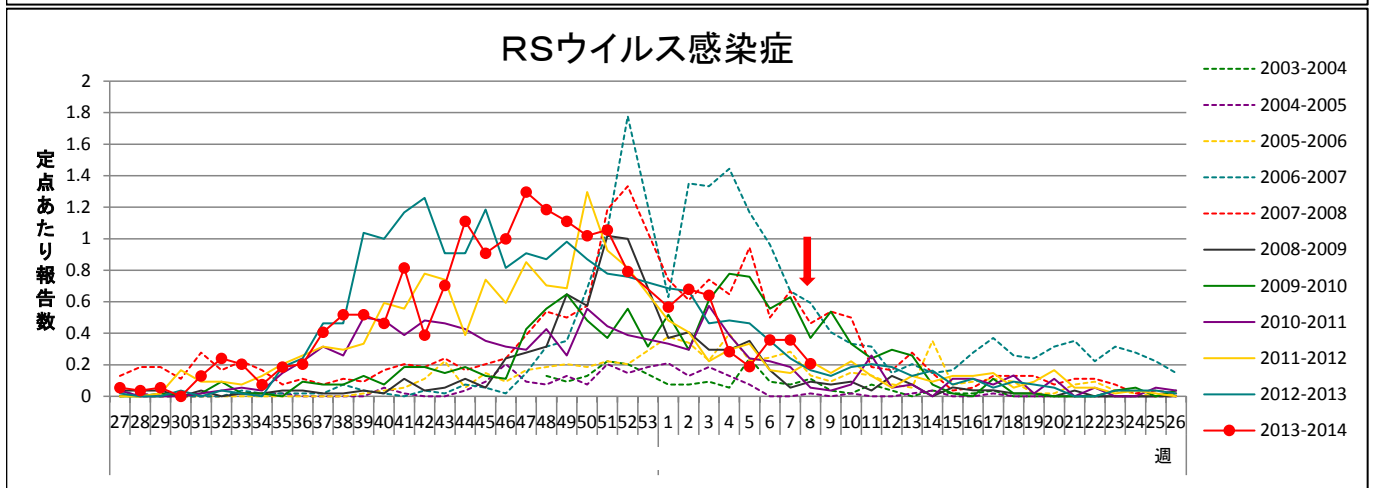
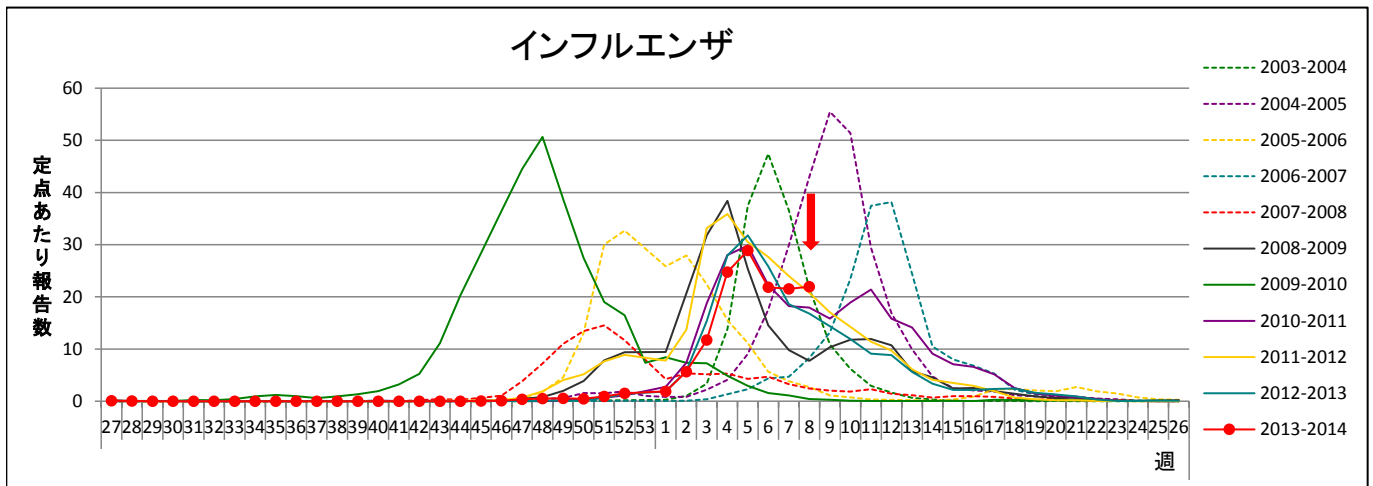
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

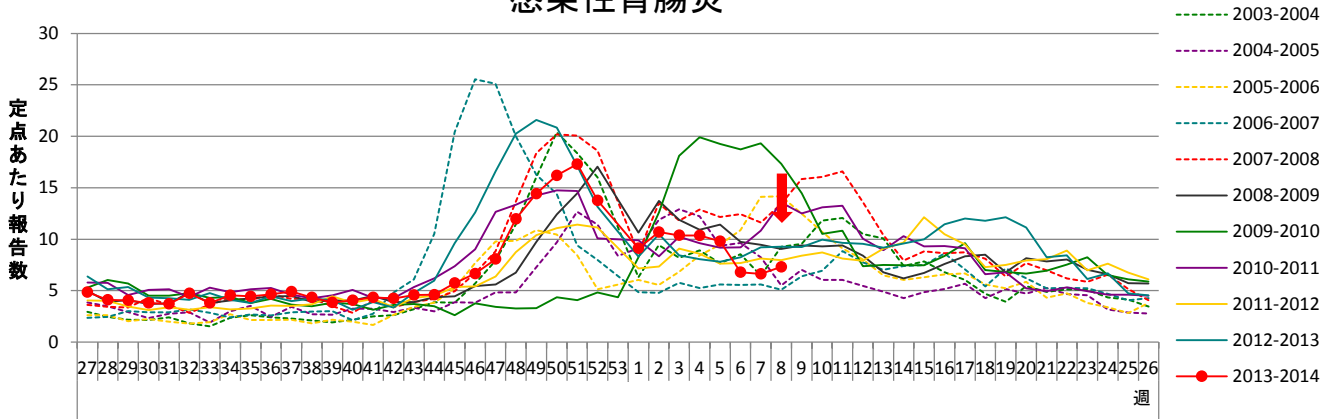
( - : 0 )



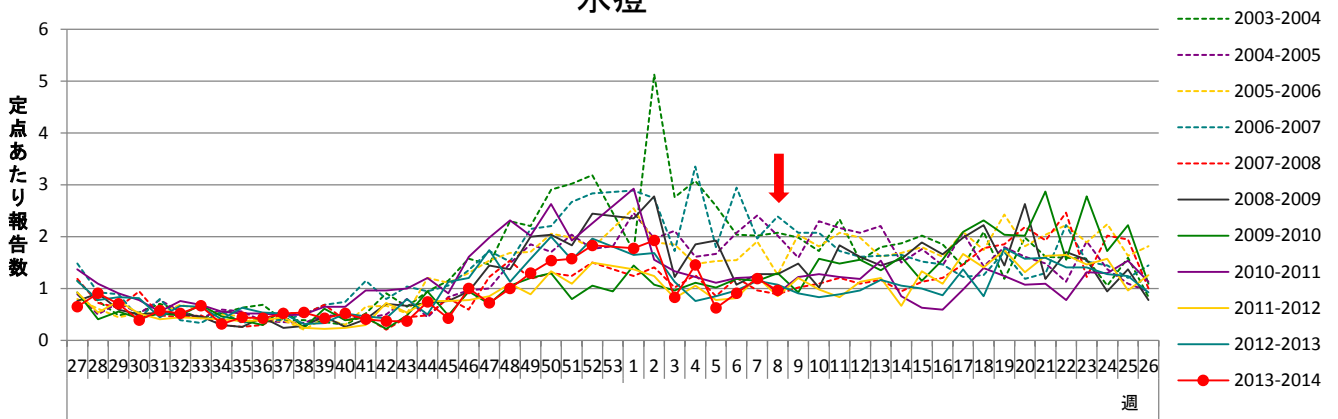




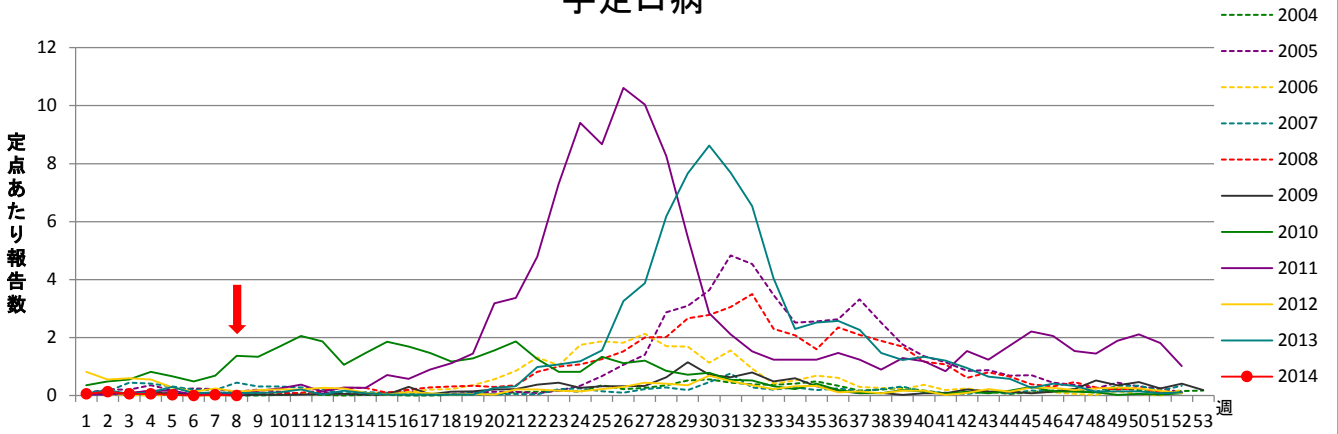
### 感染性胃腸炎



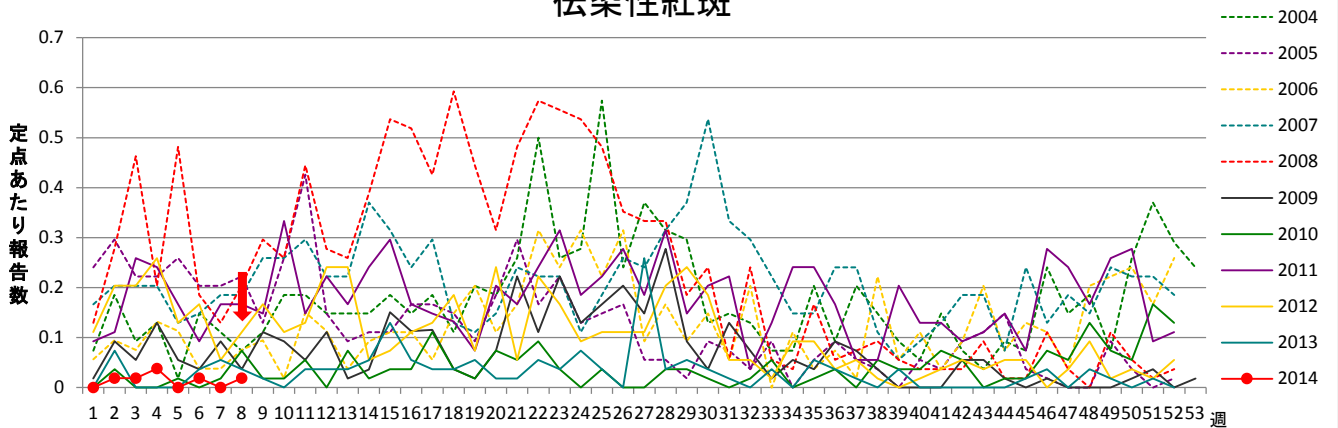
### 水痘



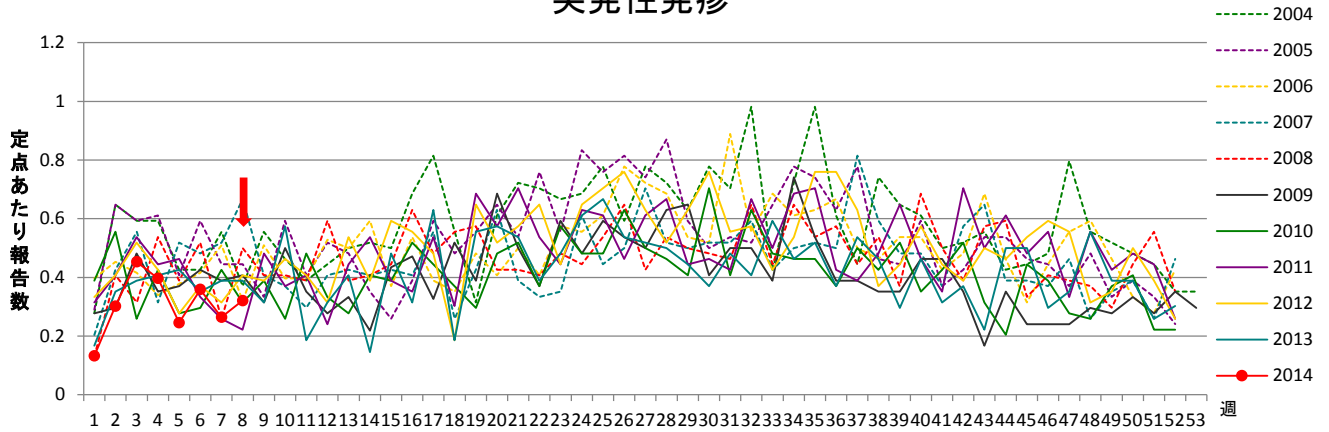
### 手足口病



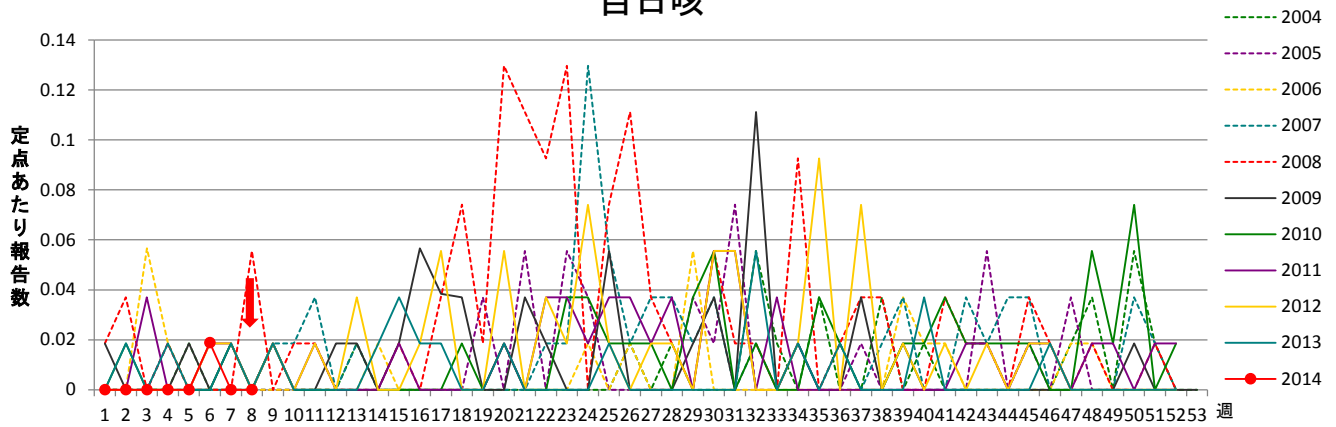
### 伝染性紅斑



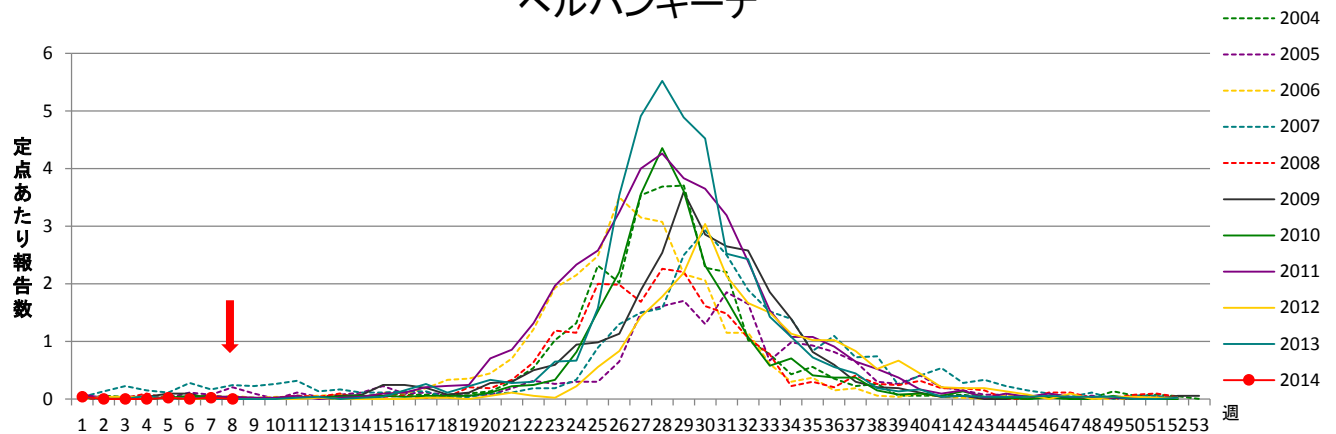
### 突発性発疹



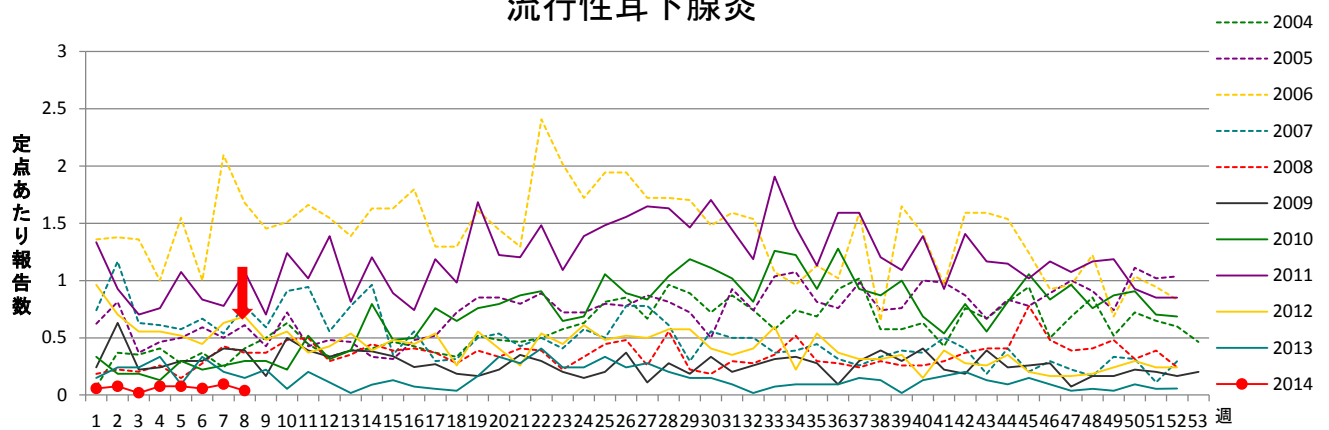
### 百日咳



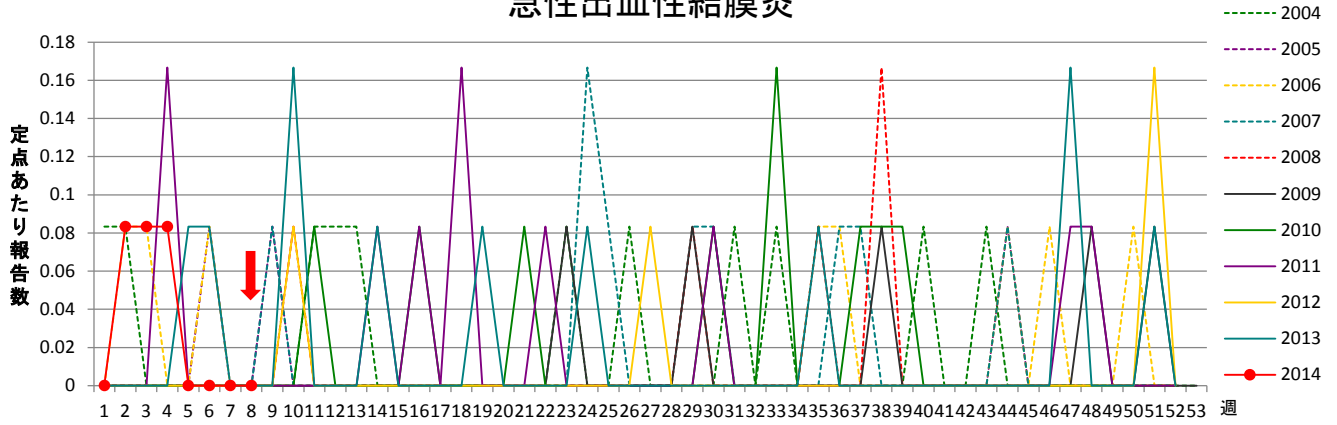
### ヘルパンギーナ



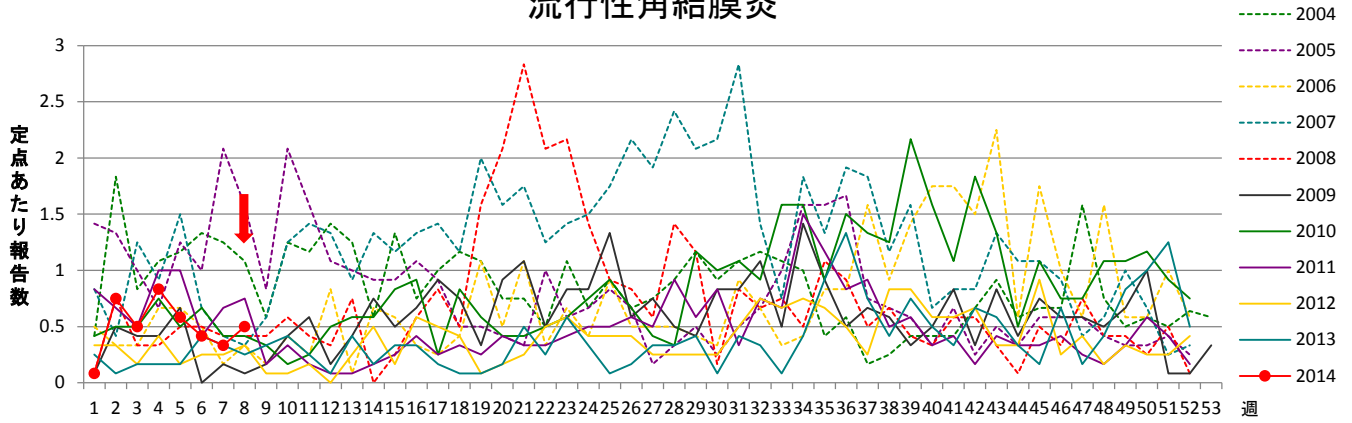
### 流行性耳下腺炎



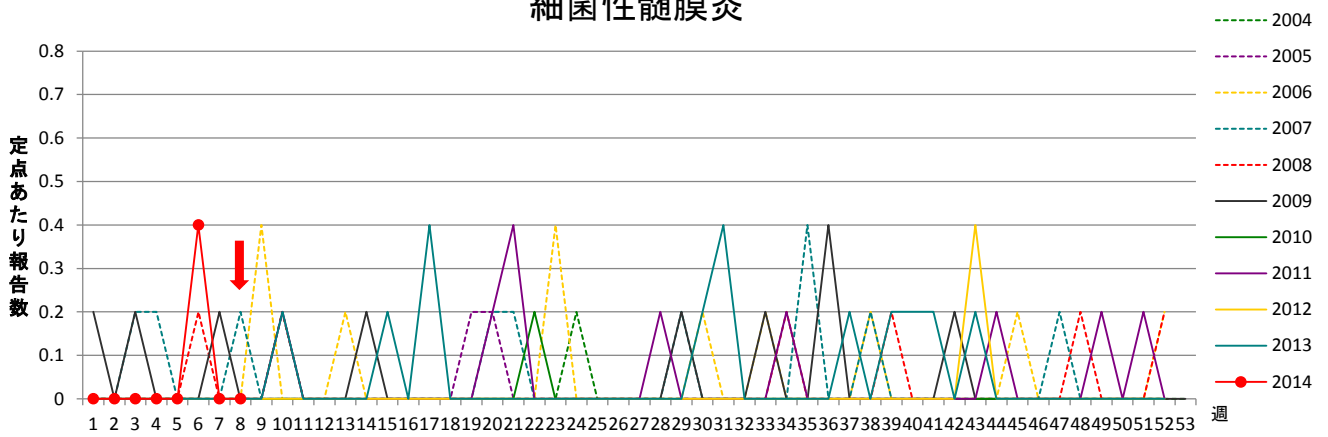
### 急性出血性結膜炎



### 流行性角結膜炎



### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎

